



書いて・聞いて・味わう仏教講座

【第一回】ようこそ、「言葉」の世界へ！

2014年11月25日

この講座は、仏教の「言葉」を書いて、そして、それを声に出して読み、その「言葉」の響きを耳に聞いて、心で味わってみよう、という講座です。

紙に文字を書いていきますが、きれいな字を書くのが目的ではありません。声に出して言葉を耳に聞いていきますが、発音や声のきれいさは求められていません。心に味わっていきませんが、味わい方は人それぞれです。もちろん、知識や理解度を競う場所でもありません。ただ、仏教の「言葉」に触れて、その「言葉」がひらいて行く世界を、一緒に楽しんでいく、という試みの講座です。

どれだけの回数になるか、実はまだハッキリわかっていませんが、もしかすると一年以上の期間になるかもしれません。ですが、最後には、ご自身が書きためたものをご自身の手で製本していただきます。それは、朝晩のお勤め（読経）の本になるかもしれません。あなたが「言葉」に育てられていった記録になるかもしれません。将来あなたを、もしくはあなたの有縁の方を、照らしてくれる光になるかもしれません。いずれにしろ、それは「言葉」によって示された、言葉を越えた世界が、一冊の本という、ひとつの形になることでしょう。

ようこそ、言葉を越えていく「言葉」の世界へ！

平成二十六年 十一月二十五日 聞見会代表 釋慈海 拝

《何を書いて、聞いて、味わうのか?》

本講座では『正信念仏偈』という偈文を書いて、聞いて、味わっていきます。

*偈||韻文で書かれた、仏の教えや仏・菩薩、祖師方の徳をたたえる詩句

《『正信念仏偈』とは?》

浄土真宗では、朝晩の勤行で読誦される事が多い偈文です。略して『正信偈』ともいい、浄土真宗の方であれば、一度は聞いたことがあるかと思えます。

浄土真宗の宗祖である親鸞聖人の主著である『顕浄土真実教行証文類』(教行信証)という書物の、行巻末に収められている偈文で、浄土真宗の教えの大綱が、七言六十行百二十句にまとめられています。

この『正信念仏偈』は、大きく「総讃」「依経段」「依釈段」の三つの段落に、分けられています。

「総讃」とは、「帰敬」ともいいます。

「依経段」では、『仏説無量寿経』に依って、仏様の教えがあらわされています。

「依釈段」では、お念仏の教えを正しく伝えてくださった、菩薩様方、祖師方のお徳が讃嘆され、それぞれの方がお伝えくださった要点があらわされています。

この『正信念仏偈』には、仏教、お念仏の教えが、集約されているといわれます。ここにあらわされている「言葉」の一字一句には、深広な背景と深淵な仏教の教えがこもっていると、言っても過言ではありません。

【書く】

さて、それでは早速「言葉」を書いてみましょう！

本番に入る前に、まずは少し練習をします。

本番では、基本的に書き直しはNGです。一筆入魂！下手な字でもいいので、間違えないように、丁寧に、じっくりと書いていってもらいます。とはいえ、いきなり本番ではちょっと心配ですよ？ということ……

【練習1】

ご自身のお名前を、練習用の半紙に書いてみましょう

あなたが、この世界に生まれて、最初に贈られた「言葉」が、そのお名前だと思っています。そのお名前の一字があらわしているものに心をかけて、丁寧に、じっくりと、書いてみてください。

【聞く】

お名前を書いたら、ひとりずつ順番に、そのお名前を声に出して読んでみましょう！

人前で、自分の名前を読み上げるといのは、ちょっと恥ずかしいかもしれませんが、でも、ほら、勇気を出して、大きな声で、自分を、自分の名前で呼んでみましょう！

〔練習2〕

ご自身の名前の文字をじっくり見て、声に出して読み、その自分の口から聞こえてくる音の響きに耳を澄ませてみましょう

どんな風に聞こえましたか？

自分の声で聞く、自分の名前の響きは、どういう音がしましたか？

〔味わう〕

自分の名前を書いて、読み上げ、耳に聞いたその響きについて、皆さんでその感想を話し合ってみてください。

〔練習3〕

みなで、話し合ってみましょう

感想も他の方と共感するところもあれば、自分にはない感想に驚かれることもあるかもしれません。味わいは人それぞれ。自分の名前という「言葉」のその味わいを、深めてみてください。

お疲れ様でした。いかがだったでしょうか？ 次回はいよいよ本番、「正信念仏偈」を書いていきます。 次回の予定日は

です。ぜひまたご参加ください！

合掌 なあみだぶ